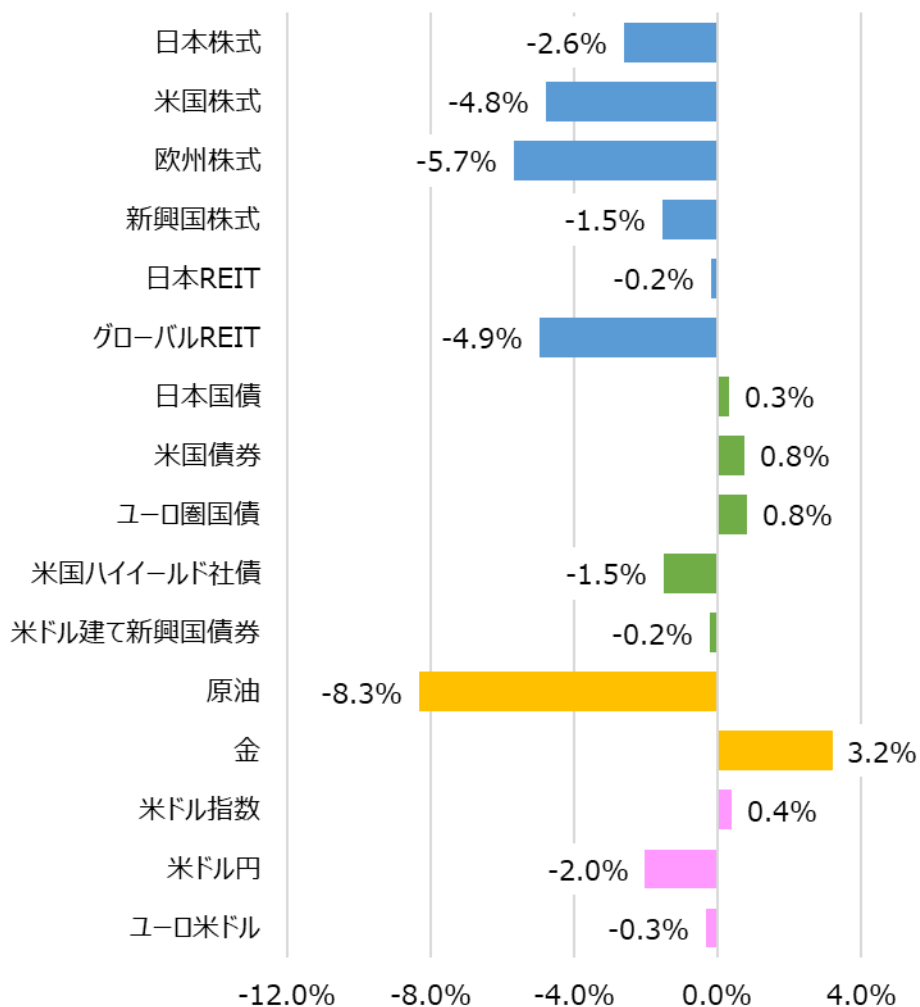




Weekly Market Review

期間：2020年6月8日～6月12日



【日本株式】

機械受注統計が弱い結果だったことや、4-6月期大企業景況感が前四半期から大幅に悪化したことなどが嫌気されました。ただ、1-3月期実質GDP改定値で成長率が上方修正されたことや、内閣府発表の景気ウォッチャー調査結果が前月から大幅な改善となったことなどから下値が支えられました。

【米国株式】

9-10日に開催されたFOMCで、参加メンバーは米経済について慎重な見通しを示し、今年の経済成長率（中央値）は▲6.5%に低下し、失業率（同）は今年末で9.3%に高止まりするとなりました。早期に経済再開に動いたカリフォルニア州やフロリダ州などで感染者数の増加傾向が確認され、米労働統計局発表の求人件数は2014年12月以来の水準まで低下、失業保険の継続受給者数が2千万人を超えと高止まりしたことなども重荷でした。ただ、ハイテク成長株は相対的に底堅い動きとなり、NASDAQ総合指数は史上最高値を連日で更新し、一時は終値で初めて10,000ポイントの大台に乗せました。

【欧州株式】

独鋳工業生産が予想以上の落ち込みとなったことやFRBの慎重な経済見通し、米国の感染第2波への警戒、足もとの上昇が急ピッチだったこともあって利益確定売りが高まりました。

【新興国株式】

7日発表の中国の貿易統計で輸出額の減少幅が予想を下回ったことや、中国が深圳の上場規制緩和などの資本市場改革を進める方針を示したこと、米ハイテク成長株の強い動きを受けてアジアの主力ハイテク株にも資金が流入したことなどから、相対的に底堅く推移しました。

【日本REIT】

相場の下落局面で日銀の買いが入り、相対的に堅調でした。住宅REITや物流REITが堅調だった一方、ホテル・リゾートREITやヘルスケアREITの下落幅が大きくなりました。当該期間中の日銀買入れ額は45億円に膨らみました。

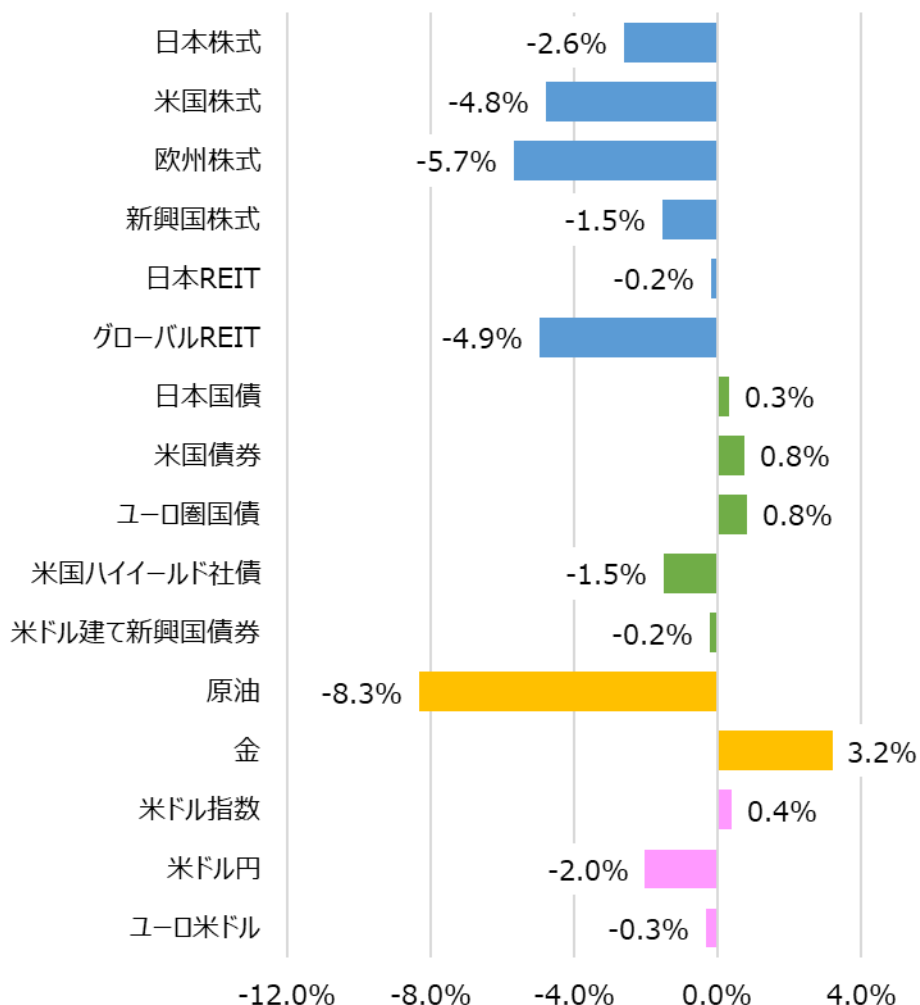
【グローバルREIT】

全米経済研究所が米景気拡大は2月に終了し、後退期に入ったとの見解を示したことや、世銀が2020年の世界の経済成長率見通しを▲5.2%に下方修正したことなどから、景気低迷が長期化すると警戒され、下げ幅が大きくなりました。時価総額の大きい米国の他、フランスや英国などが特に軟調でした。米国ではショッピングセンターなどのリテールREITやホテル・リゾートREIT、ヘルスケアREITの下げ幅が大きくなりました。



Weekly Market Review

期間：2020年6月8日～6月12日



【日本国債】

株安や円高を受けて逃避需要が強まりました。FOMCを受けた米国の緩和長期化観測も相場を支えました。

【米国債券】

FOMCで政策変更はなく、**資産購入ペースを当面維持**することが示されました。また、**メンバーの大部分がゼロ金利政策は2022年末まで続くとの見通し**を示し、パウエル議長は会見で量的緩和のさらなる拡大やフォワード・ガイダンスの強化などを検討すると表明しました。消費者物価指数が総合・コアともに前月比マイナス圏に留まったことなども金利低下を促しました。

【ユーロ圏国債】

中核国債は**独鋳工業生産の落ち込みや感染第2波への警戒**から堅調に推移しました。スペインやギリシャなどの国債売出しや、イタリアの国債入札がいずれも堅調な需要を集めたことで、南欧などの周辺国債も底堅い動きでした。

【米国ハイールド社債】

原油相場が急落したことからエネルギーセクターの下げ幅が大きくなり、メディア・通信関連や航空関連などからも資金流出が見られました。ただ、**FRBが中小企業向け融資制度の条件緩和を発表**したことで下値は支えられました。

【新興国債券（米ドル建て）】

投資家のリスク選好姿勢の後退から資金が流出しましたが、指標となる**米国国債利回りの低下**により、デレーションが長めの米ドル建て新興国債券の下落幅は限定的でした。ロシア・ブラジル・コロンビア・エクアドルなどの産油国が軟調でした。

【コモディティ（原油・金）】

原油相場は、**OPECプラス会合**で協調減産の1か月延長が決定されたものの**意見調整が難航**したと伝えられた上、**サウジアラビアなどが独自減産を6月で終了**すると発表したことや、**米原油在庫が予想外に増加**したことなどから大幅な下落となりました。金はリスクオンムードの後退やFOMCで金融緩和の長期化見通しが示されたことなどから買いが優勢でした。

【米ドル指数】

投資家がリスク回避姿勢を強めたことから米ドル指数は小幅に上昇しました。**足もとの円安進行が急ピッチだったことや日米金利差の縮小観測もあって円も買われ、対米ドルでは円高**となりました。ユーロと新興国通貨は対米ドルで小幅に下落しました。新興国通貨では、原油価格の急落からメキシコペソやコロンビアペソなど中南米産油国通貨の下げが目立ちました。



当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：CME上場のWTI原油先物取引の期近限月（1番限）価格（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ